

Libra開館おめでとう！
記念創刊号だよ

対談 山田美代子×小柳英二

インタビュー

岸田孝一

加藤覚

延藤安弘



Libra I on

2008.11.1

イベントスケジュールカレンダーつき

Happy Birthday
Libra

vol.

1



やまだみよこ：おかざき図書館倶楽部代表。市内の小学校読み聞かせボランティアグループ間の交流や育成、子育て支援など多くの市民活動にボランティアとして関わる。現在、多くの仲間と共に「りぶらサポータークラブ」設立に向けて奮闘中。

こやなぎえいじ：岡崎市図書館交流プラザ次長。市民活動総合支援センター所長。若かりし頃はフォークソングでコロンビアからレコードを出したことも。岡崎ではグランドポップスオーケストラを立上げ、ドラム奏者として25年間副団長を務めていた。

対談

山田美代子×小柳英二

Libraを舞台とした、これからの市民活動の展望についてお二人に話していただきました。

山：かなり前になりますが、6~7年前ごろ、小柳さんが企画班にいらした時、よく、まちづくりや、どのような図書館になればいいかというような事をお話しに行きましたよね。

小：そうでしたか（笑）

山：一時、まちづくりとは別の部署へ行かれて……

小：ええ、福祉の方へ行っており、Libraがどのようなものになるのか決まっていた、はっきりした頃にLibraへ戻って来たために、戻った当初は浦島太郎のような気分になっておりました。

山：Libraに関する市民の動きはご存知でしたか？

小：喫煙所などで担当者会ったときに、話は聞いていました。また、担当者も分からないことがあれば、私のところに聞きに来ていましたね。

山：Libraの中の市民活動総合支援センター所長になられたということですが、今現在どのような事をされてるのですか？

小：もともと、ジャズコレクションを内田修先生から貰ってきたのは私なので、ジャズの方を担当してくれと最初は

言われていて……結局は、市民活動の担当にもなったのだけど。当初は、広報・情報の一元化がされていなく、ソフトとハードが上手くリンクしてなくて困った。これからは、広報や内覧会に向けたプレス対応・パブリシティを作っていくかなければならない。（2019年10月初め現在）

山：私たちが今オープニングを市民の手で盛り上げようと、準備に追われています。オープン時にたくさんの方が来てくださるといいですね。ところで、どのような経緯で小柳さんがジャズコレクションを買い受けたのですか？

小：1987年の葵博、市政70周年を担当していて、その時にジャズをやりたいなと思って内田先生に頼みに行ったのがきっかけです。

山：4~5日間のジャズファミリーコンサートということで、パンジャオーケストラ・坂田明・渡部和雄・伊藤君子・山下洋輔さんなどに出演していただいた。その時、頻りに内田先生のお宅にお邪魔して色々な話をさせていたいただいたのがきっかけですね。

山：ああ、そうなんですか。

小：先生に「お前は役人か？ただの遊び人か？」と言われたこともある（笑）。内田ジャズコレクションの寄付の話をしていただいて内部で検討している時に、今の「Blue Wave Jazz」の中心となっている団体が、市民のサポートとして周年事業をやりたいと言ってきて、中央総合公園で4000人規模のコンサートをやり、大盛況でした。その収益の300万円を、コレクションの保存活用に使って、ということで寄付をされた。そこから10年位たった時に、何かやりたい、となってジャズコレクションを活用する市民団体として発足したのが「Blue Wave Jazz」。

山：Libraの市民検討ワークショップにも、初めの設計段階では「Blue Wave Jazz」がよく来てくれていましたね。

小：若い子たちにも広げて、岡崎市全体で音楽を広げていくというお気持ちは？

山：Libraの市民検討ワークショップにも、初めの設計段階では「Blue Wave Jazz」がよく来てくれていましたね。

小：生涯学習拠点というLibraの1つの目標をコンパクトにまとめた時に、図書館の資料としてジャズコレクションは岡崎の固有の財産、特色として活かしていきたい。

内田先生の功績としても、若き日の今のトップミュージシャンを育てたということがある。

Libraでも、子供さんたちに色々な音楽を体験してもらえよう、繰り返ししながら楽しんでいってあげればと思います。

この3~4年は、出前講座として中学校でジャズクリニックを行っています。生徒さんも先生も楽しそうにしています。子どもへの育成は大切ですね。

山：若い子を惹きつけるには、あまり窮屈なやり方をすると寄り付かないので、大人が柔軟な考えをしてフォローする必要がありますね。

小：私の年代では「図書館」という言葉が好きではないのですよ。どうしてもイメージが、あれもダメ、これもダメという固定概念があります。新しい機能や役割を持ったLibraでは、周辺も一緒に、若い子たちで何か盛り上げていってほしいですね。行政が管理者になると、きつくなるので自由にやっていってほしい。行政が担っていると、どうしても管理者にまわってしまう。行政は一步下がるつもりで、市民団体の方々が自分たちの要望したおりの事ができるように、企画から運営から自主的な活動を展開していってほしいと思います。行政のパートナーとなる市民の方々が育ててきてくれたら、

山：私たち市民はまだそこまでいいのではないので、育成していく、人をつくっていくシステムが必要です。そのサポートを行政側がしてくれれば……。市民は思いついてすぐやる、というのは得意だけれどもお金もない……。小：最初が大事です。リーダーとなる素質のある人に、理解してもらいながら行政が支援する。でも、行政は行政のルールの中でしかやれないので、アレンジしながらお互いが理解していく必要がありますね。やはり人ですね。市民側も行政側も、色々なことを受け入れられる柔軟な人かどうか問われる。人の話が聞ける人。リーダーは人の話が聞けないとリーダーになれない。

山：今までりぶらサポーター活動の行政担当者の方は、私たちと話し合うことを優先的にやってくてきたけれど、同じ目線で話せる人が増えていってほしいですね。

小：人を大事に育てていってほしい。市民活動も、やりたいと言ったからといって、何でもOKですとはこちらも言えない。役所も行革していく必要に迫られていて、費用圧縮・人員削減

の中、市民要望は増える状態にある。市民主導、市民自治のパートナーをつくりあげ、まかせられる部分を移行していくことが求められる。行政がやってきたマネジメント能力を市民の方に身につけてもらえる。

山：元横浜市長さんが「同じことをやるにしても、上から言われるとつらいけれど、市民が主体的にやりながら協働していくと、楽しくなる」というようなことをおっしゃっていました。行政側の予算が抑えられるから市民にまかせると、というのではなく、市民のやりたいことが、たまたま行政もやりたいことだった、というのが協働の望ましい形だと思えます。

ボランティアに対するイメージの行政の意識改革も必要です。

小：それともうひとつスッパリしない言葉が「ボランティア」なんですよ。ボランティアという言葉の意味が適正に理解されているのか……。持続的な活動を、純粋にボランティアとして継続的にやる、というのはなかなかできることではない。「給料を貰わなければボランティア」と思っている人も多い。ボランティアは無償だから、好きなことを好きな時に好きなようにやればいいと思っている人など、それぞれ意識が異なっていますからね。

山：お互いに、市民サービスとは何か、ボランティアとは何かということを開きながらやっていかないといいけませんね。ボランティアもただ言われたことをやる、というだけではなく……。りぶらサポータークラブでは、自分たちで企画・発案し、Libraがより良く市民の方々に活用されるように、ボランティアとして動き、提案もしていければと思っています。

小：今までは何でも全て行政が取り扱ってきたところがあって、講座などもこちらがテーマを設定して「来て下さい」という状態だった。それが地域交流センターができたことによって、市民の方が自主的に講座を開催するようになってきた。

山：しかし、北部・南部・西部に3館あって、同じようなものをそれぞれバラバラで行っているのが現状です。その地域の特性を掘り出して、例えば地域の歴史や文化を研究したり、地場産品の料理が広まったり、新商品が開発されたりといった発展があると面白いと思う。

山：各地域交流センターで、同じテーマで何か出し合い、それぞれ出てきた

ものをLibraに集めたり、ということができていいですね。

小：どういうテーマを投げかけていくのか、テーマ作りが重要になってきますね。リーダーとなる人が図書館で探したり情報収集などを行って、勉強会などを開いていく必要も。イメージがある人を中心に、企画力・運営力を培ってほしいです。

山：ところで、Libraが開館し地域交流センターとなつていく様子は想像できますが、どうも市民センターが上手くリンクしていない気がするのですが……。

小：「生涯学習」というキーワードが広範囲で手一杯になっています。社会教育、市民教育……一杯あって固定した概念が無い。市民センターの講座の体系もこれから明確にしていこうと思っています。生涯学習という中でLibra、地域交流センター、市民センターの役割分担を整理していきたいです。設備は無いかもしれないが、施設は充足されている。それぞれ動き出すとそれぞれの自分の居場所が欲しくなるけれども、空間としては色々な所があるのでも上手く活用していってほしいです。市民活動の場として、地域交流センターは公益活動が中心で、市民センターは趣味・教養・文化が中心の受益者負担のものになっていくでしょう。りぶらサポータークラブを設立していく皆さんも、サポーターとボランティアの活動の違いを明確にしていきたいと思っています。行政と目指す方向を同じにしながら、安心できるパートナーとなるといいですね。崩れやすいものには行政はまかせられませんので……。

山：お互いにつらいところですね。

小：あまり焦らずに、みんなが同じ気持ちになったら次のステップ、というように進んでいければ良いと思います。

山：りぶらサポータークラブは趣味の活動ではなく、サポートの対象は利用者と行政になりますからね。

小：Libraをどう立ち上げるか、というミーティングはあっても、市民活動をどうするかという話し合いは少なかったように思います。つめた話はまだできていない。今後はLibraという同じ建物の中に、活動される市民も行政職員も居て顔が見えやすくなるので、共通のモチベーションをプレインストーミングしてやっていきたいと思います。



何か1つをみせたい。
「図書館変わったね！」と言われるように。
そうするとみんなの期待度が変わってくる。

インタビュー
Libra総合館長：岸田孝一氏

ウエディングを行うことができるのも、その時、民間のノウハウを取り入れたからこそだ。

また、当時まだ珍しかったミュージアムコンサートを手がけた。

「<JAZZの街角>というのを3回やってね。内田修先生のコレクション展示とコンサートを美術博物館で。その頃はまだ、美術館でコンサートを開くというのは考えられない時代だった。だからミュージシャンにとっても美術館で演奏するというのはステータスだったみたいだね。デビューしたてだったケイコ・リーや、綾戸智恵が来てくれた」

その内田修ジャズコレクションの展示室もLibraにある。岸田さんご本人も「今まであちこち部分的に関わった事が全部Libraにある」と感慨深げだ。図書館を核として、複合施設の強みを活かし、新しく連携をとって「提案のできる図書館」にしたいと岸田さんは言う。

関わって初めて図書館の凄さを思い知ったという岸田さん。少し興奮気味に、その情報量や貴重な資料の存在を教えてくれた。

「でも、沢山引き出しがあっても、図書館はそれを利用者自身に引かせようとしているから活用されない。引き出し方が分からない人が多い。だから、図書館側が引き出し方などを提案する必要がある。そういった提案のできる企画班が図書館に必要」

また、「図書館のイメージというのが無い」とも。「静かに勉強するためのだけの図書館ならば山の中にあつたほうがいい。全く新しい図書館のイメージを作りたい。図書館変わったねと言われる何か一つをみせたい」と目を輝かせて言う姿はまさにクリエイター。「せっかく複

合施設になっても、図書館が変わらないとLibraが小さくなってしまふ。生涯学習をとりこんで、複合施設にしたことで相乗効果生まれ、人が集まることで活性化化する。その中でテーマ性を持ちたい。

例えば、全館で共通のテーマに沿った企画が、図書館でもホールでも会議室を使った講座でも行われているといった、そういう状態を作りたいし、ぜひ皆さんにもアイデアを提供してもらいたい。

行政側が何か用意して、はいどうぞ、この様に使って下さいではなく、市民の皆さんが、Libraをこんな風に使いたい、あんなこともしたいと、どう利用しようか考えながら使っていてくれば良い、そういう意味でリガサポーターの皆さんには期待している。今後、退職した団塊の世代が増えていくのだけれども、Libraを生きがいが見つけられる場にしたい」

利用者の皆さんが、Libraをそういう目で見ていくことによって、市民と共にLibraが発展していくことを、初代総合館長として、いや、一人の市民として望んでいる。

「どうせ叱られるなら、やらないで叱られるより、やって叱られよう。やるなら楽しくやろう」というのが仕事の上でのモットー。これでベストと思つた止らぬ。ベストよりベターを更新していく方がいい。常にベターを求めて岸田さんは走り続けてきた。そしてLibraを舞台に、これから走り続ける。

そんな岸田さんちも、「今、一番ハマっていることは？」との質問には「孫と遊ぶこと。1歳4ヶ月の女の子。安らぎ、癒しだね」と、顔をほころばせ、照れながら答えてくれた。

(Libra | on 創刊準備1号より抜粋)



もう一度原点に戻る
「図書館とは、図書館サービスとは何か」
を問い続ける

インタビュー
中央図書館館長：加藤覚氏

今までの岡崎市立中央図書館が明大寺の場所にオープンしたのが、昭和46年の11月1日。今年オープンするLibraと同じ開館日である。

平成17年の4月より、図書館の館長を務める加藤覚さんは、37年前もこの図書館の引越し業務に関わっていた。そして今、再び図書館の引越しを行っている最中である。

37年前、図書館に「郷土図書」のコーナーが新しく設けられ、家康文庫や愛知県の資料が置かれるようになった。当時、その郷土図書を担当されていた加藤さんは今でも郷土図書への思い入れが深い。「全国に3100ヶ所あまりある公立図書館の中で、何を特色・特徴とするかといったらその土地の郷土資料。岡崎の場合は、やはり歴史。家康を中心とした遺書になる。

また、地方で作った本というのは作つた人たちに意識があれば国会図書館などに納本するが、普通はそこまでしない。例えば、岡崎で出版されたものが岡崎の図書館で見落としていたら、全国の他の図書館でその本が収蔵されることは少ない。新美南吉のようにメジャーな人であれば、半田にも安城にも関係があり、岡崎でも集めているし、全国の図書館でも蔵書がある。が、そうでない場合は逆に、資料を探しに外部から人が来たときに、地元図書館が資料収集していないと何も見つけられないことになってしまう」と、新旧問わず郷土資料を収集することの大切さを訴える。

「図書館には図書館法というのがあって、このペースを忘れてはいけない。図書館というのはこういう事業をするところだよ」というのが定められている。基本は資料収集→整理→保存→市民へ提供、なのだけれども、それをどう解釈していくか。その中の第3条でも「収集し、一般

公衆の利用に供すること」として一番最初に掲げられているのが郷土資料。美術品、レコード、フィルム収集にも十分留意して、と書かれているんだけど、予算の範囲内でどこまで手が出せるか……」

また、図書館法では「読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びその奨励を行うこと」と定められている。

「法の中では何の研究会とも書かれていない。何でもありじゃないか、と捉えた。拡大解釈してやる方向に行くか、ここに力を入れるか入れないかによって、その図書館の特徴になっていく」と言う館長は、

30年前に「本に親しみを持ってもらおう」と「ちびっこ講座」というのを企画した。13もの講座を夏休みの10日間ほどの間に開催。まわりから「こんなことやるの？」と言われるような、図書館主催であつても本にこだわらない楽しい内容であつた。

いくつか例に出すと、ラジオ番組を生で体験するようなプロのDJによるレコードコンサートや、人形劇の公演、スコアブックのつかけ方、地元企業の方による職能の話やビルができるまで…。他にも星の話や旅の話など、多彩な内容で子ども達にも好評だったそうだ。

「自分で楽しんでたよね。整理券なども自分でつくって。何から準備すればいいのかわからない中で、講師も自分で探したりした。高校生などに、図書館は勉強するだけの場所じゃないよ、と知ってもらいたかった。こういう講座はまだ図書館に来てない人に足を運んでもらういいきっかけになる。

図書館というのは、静かにして本を読むイメージが基本的にはあると思う。その他に講座やテーマ展示。だから複合施設になることで、今まで図書館に足を運

ばなかった人にも同じ屋根の下に来てもらい、こんなにたくさん本がありますよ、というのを知ってもらいたい。むかし館は入り口だよ、調べる時には60冊、これだけうしろに資料があるよ、と。

また、3階には外国人支援センターが入る。外国人のための多文化サービスということで、本はそろえるけど、それで終わりじゃない。

複合施設であることをいかに活かして、そのバックにデーンと図書館がひかえるか、これから展開していきたい。オープンのときにこうだよ、というのではなく、市民の皆さんとも交流・協力していきたいながら、Libraのそれぞれの機能を活かしていきたいと思っている」

図書館以外の仕事で一番思い出に残っているのが、市民音楽祭だそう。市の周年行事で行われたプロの舞台を見て、市内の舞台芸術家たちが「自分達もやれる！」とスケジュールを合わせて市民参加の音楽劇を企画し、「サウンド・オブ・ミュージック」の公演が行われた。オーディションに合格した子役の中の一のお母さんが、学芸会程度のものだと思っていたら大間違いで、かなり本格的でハードな稽古が1年間続いた。

「稽古のたんびに、人が増えてふくらんでくる。最後、お金が無くなってきたら、腹はみんなで作ればいよいよ、となったりしてね。市民協働ってこれだな、とその時思った。子役のお母さんちも、専門家も行政もみんな一つのものを作り上げるのに一生懸命になってね、感動した」

Libraがいよいよスタートする。たくさんの方が関わっていく中で作りあげ、感動をもたらしたい。

(Libra | on 創刊準備3号より抜粋)



「人のつながりが街を育む」 Libraにおける市民参加のプロセスと これからの展望

インタビュー

愛知産業大学大学院教授 延藤安弘氏

平成16年より始まった、Libraの基本設計市民検討ワークショップ。その後、実施設計・管理運営へと市民参加での話し合いは進み、現在のりぶらサポータークラブ設立準備に至る。これらの全体的な話し合いの場は、今年の7月で通算24回目になる。

第一回目から、学識者・コーディネーターの立場で参加している延藤安弘さん。同時に、「Libra管理運営協議会準備会」の委員長でもあり、「岡崎市市民公益活動助成金公開審査会」の審査委員も務める。と書く、とても硬いイメージだが、笑顔が素敵な気さくな方だ。

「この町はオモロイ町やな」というのが、初めて関わったときから今も変わらぬ岡崎への印象である。

「市民参加のワークショップにおいて、毎回波風が立つ。自分たちの町は自分で守るという自立・誇りの意識、創造の緊張感に溢れる。対立はエネルギーやからぬ。予定調和は雑やな。特に行政が絡んでいる場合は、今、全国的に見て一番面白いのが岡崎。これだけ大規模な公共施設を市民参加で検討し、設計から管理運営まで、継続的に話し合いが4年も続いているのは日本初の出来事やね。世界でも初」

市民参加の公共施設づくりが全国的に盛んになってきた昨今でも、普通は1年程ワークショップをして終わってしまう。建物というハードから運営・使い方というソフト面に話題が移りながら、4年前から今なお継続して市民参加で開館準備が進められているLibraは、とても珍しい事例である。

その日本初の試みが実現できている理由を、彼はこう語る。

「まずは市民参加者層の量と質。自由に批判する声を発することができ、フロアからの警告・不安、何が起るかかわらない状況に対して、行政やコーディネーター

が出てはあかんとともに、自然と市民同士で解決していく姿があった。批判を押し返し、<何のためなんや>を何度も再確認しながら進むことができた。二つ目は、若手主体であるコーディネーターの存在。普通は40～50代やね。それが20～30代の彼らが、彼ら自身も初めての体験でありながら在来的なことをせず、全回オリジナルプログラムを組んだ。3つ目は行政。ふつう他の自治体ではコロコロと変わる人が変わっていくのに対し、岡崎では市民参加に関わる行政の人々がずっと一緒で、問題意識を持ってやってくる人が仕事をやりとげるまで居るゆうんはありがたい」

かつて、街づくりや公共施設的设计・運営などは行政主体で行われ、市民がそこに参画する機会は無かった。1980年代に世田谷で、「まちの主役は住民」という意識のもとに市民参加のまちづくりが行われたのが、日本では先駆的の事例である。その頃の世田谷の熱気と、今の岡崎の様子に似ていると延藤さんは言う。他領域にわたっての市民活動の展開、発展・育成と、時代の流れ、気運を察知した新しいシステムを自分の地域に応用する様子と同じだそうだ。

「これから、外部からの評価や外からの光でもって歴史的パースペクティブの中で見つめるとLibraの存在が輝いてくるやろね。

風景や人の動きの連続性の中で、Libraが点ではなく線から面のつながりを持っていくと見えなくとも、川とか駅とかも含めてね。

「風土」って言葉があるでしょ。外から来て去っていく<風の人>と、ずっと同じ場所に居る<土の人>が混ざりあって「風土」は育まれる。僕なんかは岡崎にとって、風の人と土のコーディネーターやね。たまにフワッと来て外の空気を吸入する。

人は全て宝を潜在的に眠らせてる存在。眠っている宝を引き出す。眠っている不安

を引き出す。やりとりしながら気づきあう関係を育て、眠っているアイデアや意識を目覚めさせ、気持ちのつながりを育むことによって、まちは育っていくやね」

今後のLibraに期待することは？

「多様に混ざり合って、我流と多流をつないでいけるとええね。とことん考え抜き、とことん必死でやって、何を目標してるんやというのを常に問いつけながら、持ち味を活かしあう「おでん」の様な関係を築けたらええと思うね。違う領域同士の出会いと励ましあいを糧に、メンクスイことを楽しむスタイルに、Libraもいよいよオープンやから、これからマネジメント力が問われるやろね。どうにかする力、いい状況をつくるよと応答する力がマネジメント力。がんばってってください」

11月1日(土)から11月9日(日)まで、Libraの3階会議室で延藤さんの「まち育て絵本コレクション展」が開催中。8日(土)には絵本幻燈会も行われる。延藤さんは、絵本が大好きだ。「絵本が創造力の源泉。意表をつく発想が、絵本にはある」。世界各地のまちを調査して歩いた際に、各地域の育後にある住まい方や、都市への市民的信頼の形成は絵本の中にあると気づいたそうだ。延藤さんの絵本コレクションと、絵本幻燈会をお楽しみに！

(Libra 1 on 創刊準備2号より抜粋)

えんどう やすひろ：1940年大正生まれ。北大建築工学科、京大大学院を経て、生活空間計画学専攻。工学博士。日本におけるコーポラティブ住宅や住民参加型のまちづくり研究・実践の先導者。自ら撮ったスライド写真と名詞子による「幻燈会」が各地で好評。またの名を「まち育ての語り部」。現在、NPO法人まちの緑創会代表理事、愛知産業大学大学院教授。

イベントカレンダー

11月1日(土)

■延藤安弘絵本コレクション展(9日まで)

- 9:00～21:00(土・日・祝)、10:00～17:00(平日)
- 会議室301～303 ●入場自由
- まちづくりに関する絵本のコレクション展示

■世界のお茶会

- 10:00～15:00 ●会議室301 ●参加無料
- 世界各国のお茶が楽しめます。

■巨大アート制作ワークショップ

- 10:00～12:00 ●創作室 ●入場自由・参加無料
- 毛糸の工作や、鎖編みのひもづくり、モチーフつなぎなど。11月1日から12月20日の完成まで、継続的にたくさんの方々の手によって参加していただきながら作り続け、巨大アート作品を編んでいきます。

■おはなし会

- 11:00～12:00/14:00～15:00 ●入場自由
- 子ども図書室おはなしのへや
- 「おはなしの森」による大型絵本やパネルシアター、紙芝居

■Libraホールこけら落としコンサート

- 13:00開演 12:30開場/15:00開演 14:30開場
- Libraホール ●入場無料(事前応募)
- 日本人で唯一のジャズマスター秋吉敏子ピアノソロコンサート

■図書作家講演会

- 17:30開演 17:00開場 ●Libraホール
- 入場無料(事前応募)
- 徳川宗家十八代当主 徳川恒孝氏公演
「江戸の遺伝子、岡崎の遺伝子」

11月2日(日)

■世界のお茶会

- 10:00～15:00 ●会議室301 ●参加無料

■巨大アート制作ワークショップ

- 10:00～12:00 ●創作室 ●入場自由・参加無料

■朗読劇「おかざきの花さかじいさん」

- 10:30開演 10:00開場/12:30開演 12:00開場
- Libraホール ●入場自由
- 桜の名所、伊賀川堤の桜並木誕生にまつわる話を伝える朗読劇

■おはなし会

- 11:00～12:00/14:00～15:00 ●入場自由
- 子ども図書室おはなしのへや

11月3日(月)

■巨大アート制作ワークショップ

- 10:00～16:00 ●創作室 ●入場自由・参加無料

■ウォークラリー

- 10:00～ ●活動コーナー受付 ●参加無料
- Libraを拠点とし、街中を歩きながらクイズに答えてもらいます。高得点で素敵なオリジナル景品がもらえます。

■おはなし会

- 11:00～12:00/14:00～15:00 ●入場自由
- 子ども図書室おはなしのへや

■ドリームセッションI

- 16:30開演 16:00開場/19:00開演 18:30開場
- Libraホール ●4,000円(全席自由)
- ジャズ界のビッグアーティストが集う夢の共演

11月8日(土)

■世界のお茶会(9日まで)

- 10:00～15:00 ●会議室301 ●参加無料

■お抹茶とお菓子

- 10:00～15:00 ●和室 ●呈茶券:500円

■絵本幻燈会とハーブの演奏

- 10:00～12:00 ●会議室103 ●入場無料
- まち育て幻燈師 延藤安弘氏がハーブの演奏をバックに絵本の世界を幻燈に映し出します。

■テルミン演奏会

- 13:00～13:30 ●会議室301 ●入場自由
- ロシアの楽器、テルミンの演奏を聴きながらロシアアンティーを飲んでみましょう。

イベントカレンダー

11月8日(土)

■ユニバーサルツアー (11日まで)

- 10:00~11:00~ (8日、10日)
- 13:00~14:00~ (9日、11日)
- 活動コーナー受付 ●参加無料
- 視覚障害、高齢者、子育てなどの立場を体験しながらLibra館内のツアーを行います。

■Libraフォーラム I

- 14:00~17:30 ●会議室103 ●入場自由
- 14:00~ 幻燈会「Libraができるまで」
- 15:15~ りぶらサポータークラブ設立総会
- 16:10~ パネルディスカッション
- 市民参加で設計から運営まで検討してきたLibra。その経緯が第1部で幻燈に映し出されます。第3部のパネルディスカッションでは、Libraの総合館長、図書館館長、市民活動総合支援センター所長とサポータークラブの代表がパネラーとして「りぶらの可能性を探る」というテーマで話し合います。りぶらサポータークラブ入会申込は当日会場でも受け付けております。

■平家物語

- 14:00開演 13:30開場/18:00開演 17:30開場
- Libraホール ●入場無料 (当日整理券配布)
- 整理券配布時間12:00~/16:00~
- 語り芝居と琵琶による

11月9日(日)

■点字点訳・聴覚障害体験 (11日まで)

- 10:00~/11:00~ (9日、11日)
- 13:00~/14:00~ (10日)
- 活動コーナー ●参加無料
- 聞こえないってどういうこと? 点字で自分の名前を打ってみよう。

■詩の朗読と四重奏

- 14:00~15:30 ●会議室301 ●入場自由
- 岡崎出身の詩人の方による朗読と弦楽四重奏のコラボレーション

■岡崎の交流都市

- 10:00~17:00 ●無料
- Libraホール/ロビー交流スペース
- 岡崎と交流のある都市をパネル展示やパフォーマンスで紹介

11月13日(木)

■巨大アート制作ワークショップ

- 10:00~16:00 ●活動コーナー ●参加自由
- 展示場所を見つけよう! ほかに11月~12月の間は毎週木曜日活動コーナーにて活動しています。

11月15日(土)

■LibraスタジオW.S. +コンサート

- ワークショップ: 15日 10:00~/13:00~/15:00~
- コンサート: 16日 10:00~17:00
- Libraスタジオ ●参加・入場自由
- 多様なジャンルの地元演奏家によるワークショップとコンサートを体験。

■講演会「故郷をつくろう」

- 13:30開演 13:00開場 ●Libraホール ●入場無料
- 作家 立松和幸による講演会

11月16日(日)

■Libra灯物語

- 13:00~17:30 ●会議室301~303
- 参加無料 (事前応募)
- みんなで創ろう! 岡崎の工芸きり絵アート

■高野孟氏 経済図書講演会

- 16:00開演 15:30開場 ●Libraホール
- 入場無料 (当日整理券配布14:00~)

11月17日(月)

■50歳からの男の地域デビュー応援講座

- 19:00~20:30 (ほか25日・12月1日・8日・15日)
- 会議室 ●受講無料 (事前応募)

11月20日(木)

■プチ・バードサンクチュアリ作りのためのバードハウス・バードフィーダー展 (24日まで)

- 9:00~21:00 ●会議室303 ●入場自由
- 世界中から集められた貴重なバードハウス・バードフィーダーと関連書籍の展覧会

11月21日(金)

■ドリームセッションII

- 19:00開演 18:30開場 ●Libraホール

11月22日(土)

■おはなしシアター、よみきかせ

- 10:30~11:30/14:30~15:00/15:30~16:00
- 子ども図書室おはなしのへや ●入場自由
- 大型絵本、紙芝居、エプロンシアターなど

■手作り工作 (各種パネル展示同時開催)

- 10:00~15:00 ●お城通り ●参加自由
- びゅんびゅんこま、飛び出すカード、切り絵など

■いっしょに作ろう、とびだす絵本

- 13:00~15:00 ●会議室201
- 参加無料 (事前応募、空きがあれば当日受付可)
- クリスマスをテーマにした、しかけ絵本作り。

■絵本の展示と紹介 (24日まで)

- 14:00~16:00 (22日) 10:00~12:00 (23日)
- 10:00~16:00 (24日) ●会議室301~302

■ブックレビュー (本の紹介)

- 19:00~20:00 ●会議室201 ●参加自由

■日本ジャズヴォーカルの共演

- 19:00開演 18:30開場 ●Libraホール
- 4,000円 (全席自由) ●日本を代表する歌声が響く

11月23日(日)

■世界の言葉で人形劇

- 10:30~11:30 ●子ども図書室おはなしのへや
- 入場自由 ●各国の言葉でのあいさつと、英語による「はらべこあむし」の人形劇など

■児童書・中高生向けの本の展示

- 10:00~16:00 ●会議室201 ●入場自由

■井筒明夫氏講演会&バードハウス作成

- 11:00~16:00 (講演11:00~13:00/作成14:00~)
- 制作室 ●講演会: 入場自由・無料
- バードハウス作成体験: 1,000円 (事前応募)
- 小鳥と友達になる方法と、バードハウス作りの体験。

■朗読会&マンドリン演奏

- 13:30~15:00 ●会議室301~302 ●入場無料

■よみきかせ

- 15:30~16:00 ●子ども図書室おはなしのへや

■岡崎のむかしばなし (浄瑠璃姫ほか)

- 18:00~18:30 ●子ども図書室おはなしのへや

イベントカレンダー

■愛知発ジャズミュージシャン・岡崎に集う

- 19:00開演 18:30開場 ●Libraホール
- 4,000円 (全席自由)
- 岡崎・愛知ゆかりのジャズミュージシャンの共演

11月24日(月)

■よみきかせ

- 11:00~11:30/13:00~13:30/14:00~14:30
- 子ども図書室おはなしのへや ●入場自由
- 大型絵本、紙芝居、エプロンシアターなど

■巨大アート制作ワークショップ

- 10:00~16:00 ●制作室 ●参加自由

11月25日(火)

■地球温暖化防止隊の実践教室

- 14:00~16:00 ●会議室103 ●参加無料
- エコドライブと風呂敷包みの有効活用

11月29日(土)

■ストーリーテリング、よみきかせ

- 11:00~11:30/14:30~15:00
- 子ども図書室おはなしのへや ●入場自由

■タカラトミー高橋玲子氏講演会と展示「みんないっしょに遊ぼう共遊玩具」

- 展示10:00~17:00/講演会13:00~16:00
- 会議室301~303 ●入場無料
- ユニバーサルデザインのおもちゃの展示とお話。

■Libraミュージックフェスティバル

- コンテスト13:30~17:30/コンサート18:00~20:00
- Libraホール ●入場自由
- アマチュアミュージシャンのコンテストとコンサート

11月30日(日)

■映画「母と娘」

- 11:00~/14:00~ ●Libraホール
- 入場無料

12月6日(土)

■講演会「オバサンの経済学」

- 13:30~15:00 12:30開場 ●Libraホール
- 入場無料

Information

イベントカレンダー

12月12日(金)

- スウェーデンセミナー(14日まで)
 - Libraホールほか ●入場自由

12月13日(土)

- りぶらサポータークラブ新規プロジェクト応募説明会

- 14:00~15:30 ●会議室101 ●入場自由
- りぶらサポータークラブとして平成21年度4月から実行していきたい新規プロジェクトの募集と申請方法について説明します。

12月14日(日)

- 環境講座

- 14:00~17:00 ●会議室103 ●参加無料
- 環境家計簿のつけ方、パネル展示、体験学習など

- ふれあいパーティー

- Libraホール ●13:30~16:00 ●500円(当日券無)

12月20日(土)

- 巨大アート制作完成記念イベント

- 場所・時間未定
- 11月1日より市民参加で作り上げたアート作品の展示と完成記念イベント(予定)

- クリスマスキャロル

- 時間未定 ●お堀通り ●無料
- Libraでの初のクリスマスを祝います。

12月21日(日)

- 空缶ドルナイト

- 13:00~17:00 ●創作室 ●参加無料
- 持ち物:アルミ空缶、缶切り
- 全国的イベント「100万人のキャンドルナイト」に合わせて、アルミの空缶でキャンドルスタンドを作成し、プロムナードからストリート広場をロウソクの灯りで演出する予定です。Libra館内外の照明もキャンドルナイトに合わせ18:00以降ライトダウンします。

12月23日(火)

- Libraクリスマス・ジャズナイト

- 18:30開演 17:30食事 17:15開場
- Libraホール ●7,500円(食事・ワンドリンク付き)
- とっておきのジャズをあなたに…

12月26日(金)

- むかし館開館記念まつり(28日まで)

- 匠体験 10:00~17:00 ●入場自由
- Libraホール・創作室・調理室

- 歴史ウォーク

- 10:00~12:00/14:00~16:00
- 会議室103 ●参加無料(事前応募)

12月27日(土)

- むかしの遊び/日本独楽

- 11:00~/15:30~ ●Libraホール ●入場自由
- こまのおっちゃんのコマのサーカス

12月28日(日)

- むかし館講演会

- 14:00~ ●Libraホール ●入場自由

Libra-Topics

Libra開館おめでとうメッセージ

皆様からいただいたLibra開館のお祝いの言葉を載せさせていただきます。

~“ジャズの街・岡崎”に、乾杯!!~
図書館交流プラザの「内田修ジャズコレクション展示室」に復元されたスタジオでは、かつて素晴らしいミュージシャン達や、音楽好きな仲間たちとの交流があったように、この「りぶら」でもジャズを通して、多くの国内外アーティストとの交流が生まれ、岡崎からも素晴らしいミュージシャンが育ってくれることを、心から応援しています。

Dr.Jazz 内田修

りぶら開館にあたりお祝いを申し上げます。先の内覧会に行かせて頂、市職員から大勢の方がおみえになっているとのこと今後の期待も膨らみます。私の立場から是非「りぶら」が都心再生の中心となり、また、商店街の皆さんが「りぶら」の活用を通して住みよい、安全で安心の出来る環境整備と都心の文化交流が出来ますことを祈願して開館をお祝いいたします。

NPO岡崎都心再生協議会 副理事長 佐谷智



開館おめでとうございます。紆余曲折しながらもワークショップで皆様と語り合った夢が一つの建物として結実し、感無量です。これからLibraが皆様に愛されて育って行くことを心から願っております。

佐藤総合・千里建築設計特定設計業務協働企業体(Libra設計) 高野洋平(佐藤総合計画/設計・監理担当)

ようやく夢が実現しましたね。長い道のりだったと思います。楽しい時もあったと思います。でも、決して夢をあきらめないで、辛抱強く待った甲斐がありました。これからはその内容が問われます。図書館を育てるのは市民です。成長を楽しみにしています。

NPO図書館の学校 小川俊彦

おめでとうございます!ワークショップの、学業勉のみなさんの夢の実現・船出を心よりお祝い申し上げます。新しい図書館の物語りはじまったのですね…。はたしてどんな素敵なストーリーが生まれるのか、とても楽しみです。

清教学園中・高等学校(探究科)片岡剛夫

岡崎市図書館交流プラザ・Libra開館に心からお祝い申し上げます。市民協働事業取り組みの苦労ご尽力に敬意を表し、生涯学習活動の拠点となる新図書館のご発展と、りぶらサポータークラブ設立準備会の皆様のご健康・ご活躍を祈念しお祝いと致します。遠藤春海座間図書館ボランティア友の会

長年の地道な運動が実ったの交流プラザLibraの開館本当におめでとうございます。生まれたばかりの若木が幹も枝も大きく成長し、未来を照らす確かな情報発信基地となるよう心から応援しています。

静岡図書館友の会 草谷桂子



りぶらサポーターマスコットキャラクター
りぶらいおん 制作者の方々

りぶら開館おめでとうございます!完成に至るまでいろいろな経緯をさせて頂き、感謝の気持ちとうれしさでいっぱいです。私もこれからたくさん利用していきたいです。

学生 兵衛みずほ

りぶら開館おめでとうございます。りぶらが地域の人々から愛され、かけがえない場所となってほしいです。また、私達の考えたリブライオンがりぶらで活躍する事を願っています。

学生 山岡紗也

開館おめでとうございます。これからは市民に愛される図書館になってほしいです。リブライオンもよろしくお祈りします。

学生 鈴木まどか

「りぶらサポータークラブ」設立のご案内

この広報誌「Libra 1 on」はりぶらサポーターによって作られています。りぶらサポーターとは、Libraの活用と利用者の活動や市民の生涯学習をサポートしようという市民です。

私たちは岡崎市図書館交流プラザ・Libraの開館に向けて、平成16年度から17年度にかけての市民検討ワークショップで、設計・運営に関する話し合いをしてきました。話し合いを重ねる中で、市民の力でよりよい施設にしようとする気運が高まり、平成18年度より、りぶらサポーター活動が開始しました。

りぶらサポーター活動を始めるにあたっては、「市民が気軽に訪れ、楽しく学べ、周辺地域も活性化」ための企画・プロジェクトを立ち上げました。また同時に、Libraを魅力的な施設にするためには、行政・企業などとの連携・協働の必要性も感じ、そのための体制づくりを考えてきました。

こうした一連の流れを受継ぎながら、これまでのサポーター活動をきちんと組織化し、行政との

両輪でLibraを盛り上げることでできる「りぶらサポータークラブ」を設立することになりました。このクラブの主体は市民です。皆様にもぜひ仲間になっていただき、企画の提案からちよとした作業のお手伝いまで、それぞれが力の発揮できる場面で共にLibraの発展と地域の活性化を実現していきたいと思ひます。

下記のとおり設立総会を開催いたします。

日時：平成20年11月8日（土）
15：15～

場所：Libra 1 F103会議室

＊当日、会員の入会を受け付けています。また、パネルディスカッションや幻燈会も当日のプログラムにありますので、こちらはご自由にご参加ください。



所在地：岡崎市康生通西4丁目7番地
駐車場：約300台 施設利用者は3時間まで無料
(それ以降30分100円)
駐輪場：約300台 無料
名鉄 名古屋本線岡崎駅より北西へ徒歩約20分
名鉄 名古屋本線岡崎公園前より北東へ徒歩約15分
最寄の駅(名鉄)までは
【名古屋】→(32分)→【東岡崎】
【豊橋】→(25分)→【東岡崎】
東名高速岡崎インターより 国道1号線西へ車で約10分

会員募集

この会の趣旨に賛同し、お力添えをいただける方は、ぜひご入会ください。また、会の目的を達成するために、賛助・協力して下さる方々のお力が必要とす。何卒、私たちの趣旨をご理解いただき、絶大なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

- (1) 個人会員：年会費2,000円
- (2) 団体会員：年会費2,000円
- (3) 賛助会員：1口1,000円(何口でも、随時)

年会費の期限は4月1日から翌年の3月31日とし、賛助会費は随時受け付けます。年度途中の入会における年会費については、9月末日以降の入会をもって半額とし、納入された会費は返却しないものとします。

年会費は名簿の作成、通信費などの会の運営費として使用し、賛助会費は会の運営費を補うほか、事業実施などの経費として使用します。尚、今年度11月から平成21年度3月までの年会費は1,000円です。

編集後記：ついにLibraがオープンしました！もう足を運んでみましたか？この情報誌に載せたいことはあれもこれもいっぱいあるので、これから皆さんにたくさんお伝えしていきますね。ぜひ皆さんからも情報をお寄せください。ご意見ご感想もお待ちしております。

発行・編集 りぶらサポータークラブ設立準備会
「LibraNews」プロジェクト

お問い合わせ：りぶらサポーター事務局
NPO岡崎まち育てセンター・りた Libra 2階市民活動センター内
電話：0564-23-3114 Fax：0564-23-3142
E-mail：info@okazaki-libra.com
(Fax、メールは件名に「りぶらサポーター活動」と明記ください)